

プロジェクト特別実習 B1

仰木森林学入門

講師：中井徹氏（上仰木辻ヶ下生産森林組合事務局長）

指導：櫻井宏哉（デザイン科准教授）

期間：2007年6月～11月

会場：上仰木辻ヶ下生産森林組合共有林地



上仰木辻ヶ下生産森林組合事務局長、中井徹氏を講師に迎え、「プロジェクト特別実習B1(仰木森林学入門)」が開講しました。なお私、櫻井宏哉がコーディネイターとして学生側への事前、事後連絡、現場の学生と講師の仲立ち、成績のとりまとめなどをおこないました。履修学生数は11人でした。

授業の目的は大きく分け2つあります。

1. 森林の維持により、私たちの暮らしが守られ、改善されることを知る。水源となる森林、山崩れなどの自然災害を防止、CO₂の削減と温暖化防止など。
2. 森林維持作業の体験。森林施業地現況を知り、樹木の枝打ちから伐採までの作業を実体験する。



以下、4回の授業内容を記します。

第1回(6月24日)：森林施業地現況確認と所有地境界確認、間伐の場所と立木の現況確認（林齢確認）。所有地境界確認。京都と滋賀の県境に赴き、境界に杭を打ち込む作業。

第2回(7月29日)：枝打ち、間伐。伐採はチェーンソウ。枝払いのはのぎりとチェーンソウ。

第3回(10月14日)：間伐木の皮剥ぎ取りと切断、枝切り、掃除。

第4回(11月23日)：間伐された面積と枝打された面積をコンパス測量。獣害対策。

以上、毎回、午前8時30分に集合し、9時より授業を開始しました。指導は、上仰木辻ヶ下生産森林組合事務局長中井徹氏に加え、上仰木辻ヶ下生産森林組合の方々によりおこなれました。組合員の人数は15人前後にのぼります。指導の際、のはのぎりやチェーンソウなどの道具の取り扱い、各作業の意味などを作業する学生にマンツーマンで教えていただきました。また各授業後、交流会がもたれ、昼食とともに、組合の方から林業の現場についてのお話をうかがうことができました。毎回、組合員の方の手作りの食事を用意していただきました。最終日は学生に餅つきをさせていただきました。鹿や猪の料理までいただいたことは、五感を動員した授業であるとともに、学生の多くが語っていた仰木の人の暖かさを知り、感謝できたことが、本来の授業目的を越えた収穫でした。

文：櫻井宏哉（デザイン科准教授）

プロジェクト特別実習 B2

琵琶湖に生えるヨシを使った 灯りの制作指導と「ヨシ灯り展」出品

指導：磯野英生(デザイン科教授), 立神まさ子(本学非常勤講師)
山本拓朗(本学非常勤講師),
佐久川長久(住環境デザインクラスT.A.)

期間：2007年6月～9月

会場：島小学校(近江八幡市), 市原小学校(東近江市),
老蘇小学校(安土町), 能登川北小学校(東近江市),
安土中学校(安土町),
西堀榮三郎記念探検の殿堂(東近江市)

デザイン科住環境デザインクラスでは、この10年、ヨシの造形に取り組んできた。今年度はその成果を踏まえ、ヨシを使った灯りの造形指導を小学校や中学校などに出張しておこない、その成果作品を安土町で開催される「ヨシ灯り展」に参加してもらうという一連の造形教育活動を企画・実行した。具体的には、本学の住環境デザインの教員、ティーチング・アシスタントおよび学生が参加してワーク



ショップを各学校や施設で催し、小学生や中学生の制作指導をおこなうとともに、両者の交流を心がけるという試みであった。実施期間は、6月中旬から9月下旬まで、断続的におこなわれた。参加校は、滋賀県下の島小学校、市原小学校、老蘇小学校、能登川北小学校、安土中学校および西堀榮三郎記念探検の殿堂の探検クラブで、小学校4校、中学校1校、および1クラブであった。子ども好きな学生が多く、制作の助言やサポートをおこなうなかで、交流が深まり、小学生からはお礼の手紙や写真が届くほどであった。

10月6日から8日まで、安土町で「ヨシ灯り展」が開催された。参加校は、滋賀県下の小学校から中学校、高校、大学まで、総数250点を超えるものとなった。本学からは4チーム+2名が参加し、市田華代、梅村奈菜、加川知歩、兼城里紗、玉木郁恵、山本紗耶未による《あふれだす生命》が県知事賞を、佐藤真紀、澤井成美、篠崎潤一、杉原孝治、鈴木桜による《スパイラル》が町長賞を受賞したことを報告しておきたい。(この展覧会に出品した大学生の作品は、探検クラブの生徒作品とともに、西堀榮三郎記念探検の殿堂で11月に再度展示されることになった。)

文：磯野英生(デザイン科教授)

プロジェクト特別実習 C1

大津絵踊りを踊ろう

指導：小嵯普通（人間学講座教授）

期間：2007年6月～11月

会場：大津市伝統芸能会館ほか



大津絵は、現在の大谷・追分界隈で江戸時代に売られていた庶民性豊かな絵画です。江戸半ばには多様な画題（藤娘・鬼の念仏など）が描かれ旅人に人気を博しました。19世紀初めに、この大津絵の画題を読み込んだ大津絵節が大津の花街から発生し、幕末から明治にかけて全国的に流行しました。大津絵踊りは、大津絵節に振り付け、大津絵の画題の面をつけて踊るもので、大津絵節とともに花街



に伝承されてきました。大津市の無形民俗文化財にも指定され、1988年には、踊りの保存継承・普及を目的として「NPO 法人大津絵踊り保存会」が組織されています。

「プロジェクト特別実習 C1」では、この「大津絵踊り」の歴史や背景を学び、保存会の方々の指導のもと、実際に踊りを学び、舞台上で発表します。伝統芸能の持つ意味や、その保存継承の大切さ、難しさを、体験を通して学ぶ実習です。学生たちは、大津絵踊りや大津絵のレクチャーを受講するいっぽう、踊りの練習を重ね、衣装や小道具も自分たちで制作しました。11月には大津市伝統芸能会館でその成果を発表する公演が盛大に開催されました。

文：小嵯普通（人間学講座教授）

プロジェクト特別実習 D1・D2

石山商店街活性化計画

指導：大原雄寛（デザイン科教授）

期間：2007年4月～12月

会場：石山商店街（大津市）



大津市石山商店街振興組合より、平成18年夏に相談を受ける。商店街の活性化の取り組みを単なる請け負い仕事ではなく、依頼の内容を吟味し、提案までの流れを正しく理解させる授業にする。

目的：今日の生活環境、特に日常生活を支える商店街について、その役割と現代生活の様相をさぐり、商店街の意味を考える。

石山商店街から提案されている「あきない紋でいらっしゃ〜い」計画を受け、商店街の人々の思い入れを理解しその実践に協力し、その効果を確認め、商店街の役割と生活環境のありかた及びデザインの役割について実践し考察する。

文：大原雄寛（デザイン科教授）